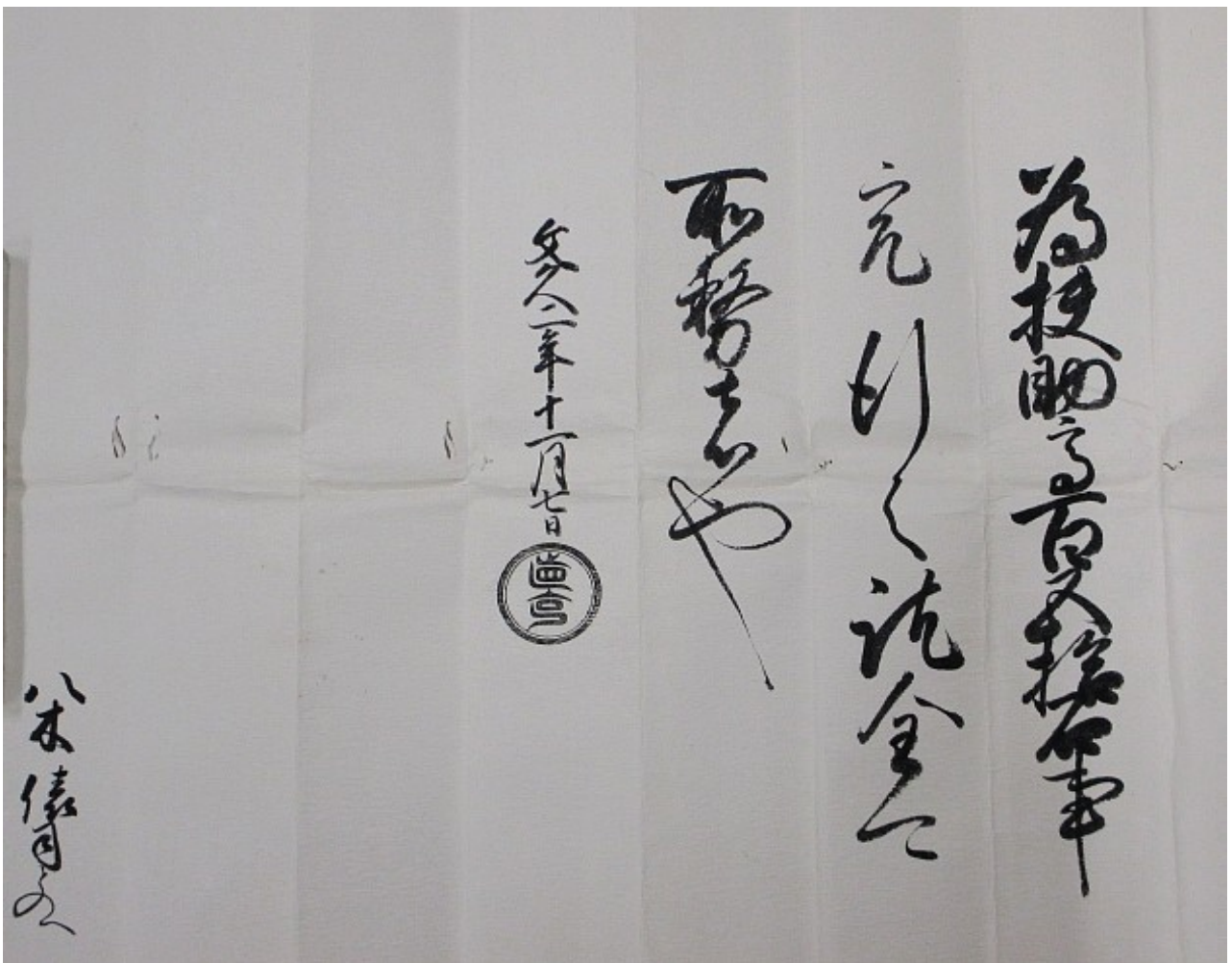


②4 〔松平直克宛^{あてが い}行状〕

文久2（1862）年11月7日

これは第7代川越藩主松平直克が、
八木俵^{ひょうじ}司に150石を与えた文書です。
八木俵司長^{なおかつ}纓は、文化12（1815）年川
越に生まれ天保8（1837）年家督相続、
同10年藩主の御前^{ものがしら}にて俵司と改名しま
した。御目付・物頭・勘定奉行などを
歴任し、元治元（1864）年からの前橋
城再築の際には早くから前橋に赴き任
務に当たっています。明治2（1869）
年には御家附会計判事となりますが、
同4年隠居し楽山と号し、同9年病没
しました。

八木健次家文書 P09702 No. 577



【史料②④】〔松平直克宛行状〕（文久二年）

〔釈文〕

為扶助ニ高百五拾石事、

充ニ行之ニ訖、全可ニ

所務ニ者也、

文久二年十一月七日 （直克・黒印）

八木俵司とのへ

〔読み下し文〕

扶助（ふじよ）として、

高百五拾石の事、

これを充行おわんぬ、

全て所務すべきものなり、

文久二年十一月七日 （直克・黒印）

八木俵司とのへ